

市民の動き

(6月1日現在)

男	85,031
女	82,783
合計	167,814
世帯数	40,247

空ツユよそに 田植えおわる

市内で一日に必要な農業用水は一八九、〇〇〇トン。ところが四月二十日の大雨以来、雨らしい雨もふらず、各地で水田に「地割れ」ができるなど、水不足対策は深刻な問題として取り上げられてきました。

富士市では、県干ばつ対策本部、各農協と協力して農業用水の確保に努め、六月三十日までに水田二二六〇ヘクタールの田植えを終わりました。



完成が待たれる元吉原のかんがい用水。(大野町)

あの手 この手で かんがい用水確保

「水がなくて田植えができない」といわれた水田は、市内で約六一〇ヘクタールにのぼりました。地区別では田子の浦地区二五〇ヘクタール、元吉原地区二二〇ヘクタール、浮島地区一〇〇ヘクタール、須津と今泉地区

が各二〇ヘクタールとなつています。このため、市は一日に必要なかんがい用水一八九、〇〇〇トンを確保するため、工業用水の転用、日軽金の発電用水の導入、伏流水や地下水の調整などを行ないました。

田子の浦地区の一日に必要なかんがい用水は一〇、〇〇〇トン。例年富士川工業用水から毎秒八トン誘水していましたが、水源に水がなくなったため、日本軽金属に発電用水を放水するよう依頼しました。この結果、六月十六日から五日間、毎秒二トンの放水が行なわれ、水神四ヶ郷用水取水口から導水しました。また上堰、中堰、下堰農業用水路に工業用水を取水し、下流への調整を行ないました。

元吉原地区の三新田(大野、檜、田中)は、毎年水不足に悩まされてきました。このため、現在元吉原かんがい用水工事を行なっていますが、田植え期にあわなかつ

これからの稲作管理

ことしは、異常天候のためか、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイの発生は平年よりややおくれであり、発生量はやや多くなることが予想されています。

綿葉枯病

ヒメトビウンカを媒体とするため、例年より多く発生する見込みです。

薬剤はキルバール、サンサイド、DM、BHCを使用し、7月中旬までに3、4回いっせいに散布することが必要です。

萎縮病

ツマグロヨコバイの発生が多いので、萎縮病の発生も多いと思われます。

薬剤は、サンサイド、デナボン、マラソン剤を使用し、7月中旬までに散布してください。

二化めい虫

幼虫の発生がややおくれしているし、ガの発生も少ないと思われます。

薬剤はバイジット、スミチオンを使用し7月中旬までに散布してください。

ため、大野新田の地下水調査用井戸から一日一、七二八トンの揚水を行ないました。また、沼川をせきとめ水路に取水してかんがい用水の不足を補いました。

なお、元吉原かんがい用水工事は、昭和放水路からポンプアップした水を三新田に誘水するもので、工費は八〇〇万円です。三三〇のバイプを本年度七〇〇布設します。完成は今月中旬の子定になっています。

浮島地区には、かんがい用の井戸が五本あり、いままでは五本で約八、六〇〇トンの水を自噴していましたが、一割くらいは水量になつたためモーターを備えて揚水を行ないました。

須津地区は、地震災害で、井戸から高台に誘水して、そこから下流に流しました。

今泉地区には、昨年潤井川の伏流水をポンプアップする工事を行ない、かんがい用水の確保に努めてきましたが、これが故障したため、早期修理を行ない田植え期にあわせました。

市農政課は「干ばつで相当な被害が予想されたが、農家のみなさんの協力で最少限に食い止めることができた」といっています。



「ことしは田植えができないかと思ったよ」...
干ばつに泣かれた農家にとって「水——植付け」は
どれほどうれしかったことか (今泉沖田耕地で)

無料人権相談

7月21日
村八分、人身売買、うわさ話で名誉を傷つけられた、家主が勝手に貸家をとりこわしたなど、人権問題で悩みごとをお持ちのかたはおでかけください。

日時 7月21日
午前10時から
午後3時まで

場所 吉原市民会館

毎月水曜日 行政相談

国が行なっている事業や、工事などに、苦情、要望のある人は、行政相談室へおでかけください。

- 第一水曜 本庁舎
- 第二水曜 富士分館
- 第三水曜 鷹岡分館
- 時間は午後一時から三時まで
- 相談員 遠藤栄(松本) 井出安江(富士見町)

無料交通事故相談

交通相談室で弁護士による無料交通事故相談を始めましたので、交通問題で悩みごとをお持ちの人は気軽におでかけください。

- 場所 交通相談室(本庁)
- 日時 毎週水曜日午後1時から3時30分まで
- 担当弁護士 長橋勝啓、石川和司、河野光男

